

Ⅱ Nライナー18(サスティナ) – [ノリ釘併用工法]

床張りの工法

二重床張り工法です。鋼製床下地構成材(JIS A 6519)に下張板をタッピングビスにて留め付けた下地材に、大型積層床材『SVダイヤフロア Nライナー18(サスティナ)』を接着剤、雄実部分隠し釘留め付けにて施工して下さい。

施工前の点検

鋼製床下地の納まりにつき下記項目について点検し、不備な点が有れば申し入れ補正をしてから作業を進めて下さい。

- ①タッピングビス等の打ち忘れ
- ②根太鋼等のレベル不整
- ③根太鋼の角度、間隔等の不整
- ④体育器具据え置き箇所等の補強根太鋼の設置有無
- ⑤油、コンクリート等の汚染箇所の有無並びに除去
- ⑥床下地等の清掃有無

下張板

(1)下張合板(F☆☆☆☆推奨)

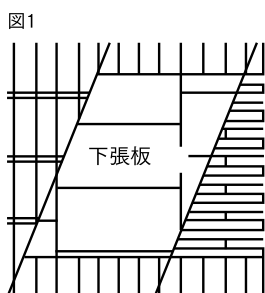
普通合板Ⅰ類または構造用合板で耐水性能を有し、日本農林規格合格品で厚さ12mm以上とし指定によります。但し、柔道場、剣道場、柔剣道場にあつては15mm以上とし指定によります。

(2)パーティクルボード(F☆☆☆☆推奨)

JIS A 5908、MタイプまたはPタイプで日本硬質繊維板工業会の下地用パーティクルボード規格表示のもので厚さ20mm以上とし指定によります。

[割付け]

下張合板は長手方向と根太鋼とが直角に交わる方向に置き、継ぎ手は根太鋼芯とし、合わせ目は短手の芯に合わせる縦レンガ張りとして下さい。



[ビス留め付け]

タッピングビスの打ち込みは、根太鋼ピッチ300mmの場合35カ所(板幅方向5本×7列)とします。ビス頭が下地面より出ないよう頭が沈み込むまで十分に留め付けて下さい。

留め付けはタッピングビス25mm以上とします。下張板の板厚に応じたタッピングビスの長さとし指定によります。

割付け

下張合板に割付けを行い、床材は原則としてフロー中央部から両側に振り分けて張り進めますが、床の施工面積が小さい場合、片側から張り込んでもかまいません。

中央部の張り始め基準線は根太鋼と直交(大引鋼と平行)する片側の壁側から床材幅の倍数取り上に定める根太鋼と直交に割り付けて下さい(トランシットを使用しますと正確な墨出しが可能です)。

張り始めの1列には雇い実を床材雌実に着着嵌合せた後、床材を両側に振り分けて600mmずらしとなるように割付けて下さい。また床材のエンド方向の接合部を雄実上部に打つ隠し釘が根太鋼と干渉しないように割付けて張り始めて下さい。

本製品は表面材に天然木を使用しておりますので、1枚1枚全て色柄が異なります。張り込む前に必ず仮並べを行い全体の色柄のバランスを取って下さい。

接着剤(F☆☆☆☆推奨)

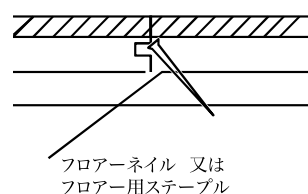
接着剤はJIS A 5536(F☆☆☆☆)に適合する一液型ウレタン樹脂接着剤、またはエポキシ樹脂接着剤を使用して下さい。

(接着剤の塗布量は、下張合板(針葉樹合板)の平滑性を考慮し、クシ目ペラで500~600g/m²が望ましい)

張り込み

下張合板上に接着剤(クシ目ペラで500~600g/m²)を塗布し、床材の留め付けに際して、実部分はフローネイル2.1×38以上、又はフロー用ステープル1.4×38以上とします。床材のジョイント部分に段差が生じないように図2「床留め付け要領図」、図3「床留め付け位置詳細図」に従い留め付けを行なって下さい。留め付け不足のないよう十分に注意して作業を行って下さい。次の床板を張り込む時、ジョイント部に段差・隙間が生じないように施工し、通りよく並べ、フローネイル又はステープルにて留め付けして下さい。

図2「床留め付け要領図」



使用時期や現場環境によって接着剤の硬化時間が異なります。オーバータイムによる接着不良防止の為、接着可能時間内に張り込み出来る範囲で接着剤を塗布して下さい。

使用時期や現場環境によって接着剤の硬化時間が異なります。オーバータイムによる接着不良防止の為、接着可能時間内に張り込み出来る範囲で接着剤を塗布して下さい。

[ヤトイ実はめ込み要領]

雌実にヤトイ実をはめ込んでの施工については、図4の要領で留め付けて下さい。尚、図5のような施工にならないようにご注意願います。

図3「床留め付け位置詳細図」

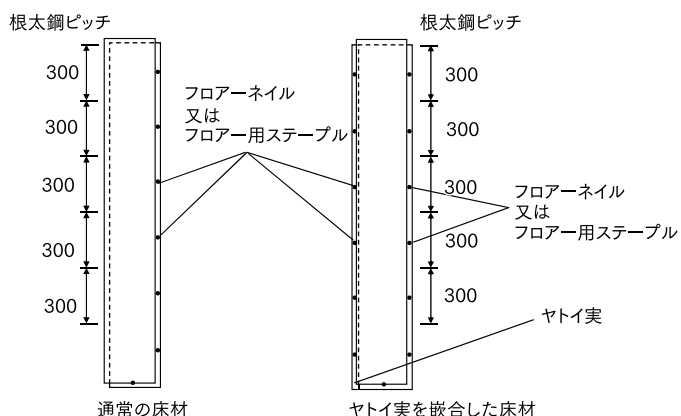


図4「ヤトイ実をはめ込み要領図」

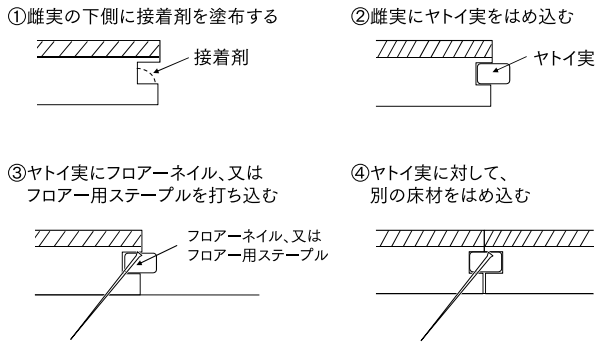
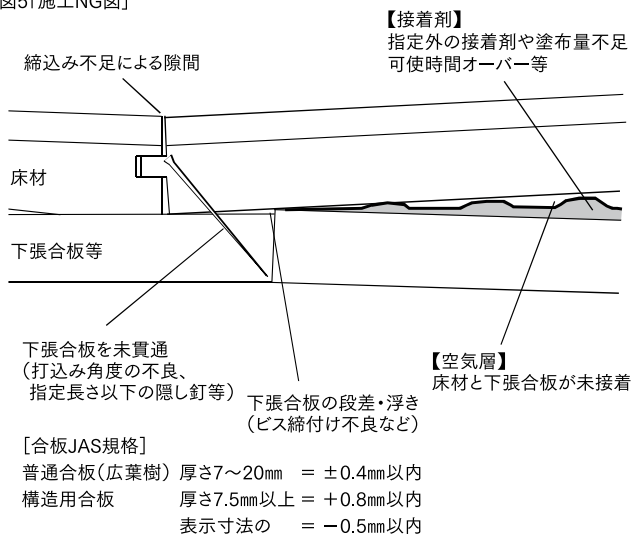


図5「施工図」



エキスパンション

壁、幅木、敷居、点検口等には適当な空隙を明けエキスパンションを設けて下さい。空隙にはゴム、コーキング等を行う場合は指定によります。

張り始め、張り終いは壁面から必ず約20mm以上あけて下さい。巾木呑み込み等の場合は現場の指示に従って下さい。特に環境湿度の高い地域は床材の伸びを考慮して下さい。

JAS規格により、床材の平均含水率14%以下となっております。施工地域・立地条件等の環境により、エキスパンションゴムまたは隙間を設定願います。目安として含水率の変動率「VII技術資料(P11)」を参照願います。

点検・養生

床材の張り込み作業が完了したら、床面全面を点検し、隙間があればパテ等で補修して下さい。

施工に使用した接着剤が完全に硬化するまで充分な養生期間を設けて下さい(24時間以上)。

サンダー(研磨)、塗装工程作業までに日数が掛かる場合は養生シート等でフロー表面全面を保護して下さい。

素地調整・サンディング(研磨)

張り込み完了後、段差、接着剤の付着、キズ、汚れ等を取り除き塗装工程の素地作りのためにサンディング(研磨)を行って下さい。素地調整(研磨)並びに次工程の塗装作業中においては許可無く床面に立ち入らないで下さい。砂、石などの異物により床面にキズの発生やサンドペーパー破損の原因となります。

(1)素地調整

精度ある製品(工場出荷時の仕上げは#80)の為、素地調整のサンディングとして#60~100で目払い及び汚れの除去を行い、塗装仕上げの素地を作って下さい。床面にサンダーの筋目、ざざ波等の削りむらが出来ないよう充分注意して下さい。

(2)清掃

床面の清掃は電気掃除機を用いて研磨粉やその他の異物を完全に除去して下さい。

塗装

ポリウレタン樹脂塗料(湿気硬化型、2液硬化型)、3回塗りを推奨致します。それ以外の塗料についてはご相談下さい。

塗装要項は塗料メーカーの作業標準として下さい。

※ささくれ問題の対策に「ササクレス」加工をお勧めします。

完了報告

VI.共通項目完了報告(P11)をご参照下さい。

安全管理

VI.共通項目安全管理(P11)をご参照下さい。

詳しくは、日本フローリング工業会発行の「フローリング張り標準仕様書(令和2年度版)」をご参照下さい。

フローリング張り標準仕様書(令和2年度版)

第8章 体育館用フローリングの工法(P23)

第1節 ノリ釘併用工法(P23)

第3節 下張り(P26)

第4節 研磨・塗装・ライン引(P28)

第5節 メンテナンス(P29)